

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準 6	学生支援
点検・評価項目(2)	6-2 学生への修学支援は適切に行われているか。
評価の視点	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性
	補習・補充教育に関する支援体制とその実施

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

6-2	留年者および休・退学希望者の状況を把握し、きめ細かくに対応している。基礎演習等のクラス単位授業において個別的に学修指導を行っている他、長期欠席者が出た場合には、学科主任等による個別面談を実施している。退学の相談を受けた場合（学生支援課経由）は、学科主任に相談し、条件によっては教員による面談を行い、確認した上で、「退学願」（申請書）を交付している。結果は教授会で報告しているが、常時学部教務委員会や学科内で対策を検討している。オフィスアワーの実質を持つものとして、各学科のゼミ（演習）指導教員による対応がなされている。 障がいがある学生についても、学生支援センターの中に、「障がい学生支援部会」が設けられ、以前に増して、当該学生との意思疎通をはかりながら、支援が適切に行われるようになって来ている。
-----	--

【効果が上がっている事項】

6-2	事前に欠席者対策を講じることにより、学業に復帰するパターンが微増傾向にある。各学科において、更によりきめ細かい取り組みが行われ継続することが効果を上げていくと考えられる。数値として表わすことは困難である
-----	---

【改善すべき事項】

6-2	長期休暇期間中は面談が難しい状況となる点。学生が帰省してしまったりするので、その前に面談できるような体制を整える。
-----	---

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

教授会議事録、学部長会議資料（学生支援部会報告）

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	留年者、休・退学者への更なる学修支援が求められる。また、所謂「心の病」を抱える学生への支援も、センターが取り組みを始めるとのことであるが、一層工夫し、見守る必要がある。	留年者、休・退学者数。	→					
	留年者、休・退学者を前年度よりも減少させることを目標とする。		→					
14 年度 目標	新学期当初、各学科の「基礎演習」等において、欠席の多い学生を把握し、素早い対応をする必要がある。現在も行っていることではあるが、教務委員会・主任会議・教授会において、各学科の現状と対応を報告してもらおう。	留年者、休・退学者数が前年度よりも減少すること。	→					